

学 界 消 息

1. WMO の第3回総会および第11回執行委員会

WMO第3回総会は4月1日から28日までジュネーブのパレナシオン国際会議場で開かれ、運営方針、予算、技術的問題等が審議された。

技術的問題では、水理気象、原子力平和利用に対する気象協力、人工衛星と気象、世界気象網の整備と通信の迅速化、ジェット時代における気象サービスの問題等が論ぜられた。気象事業は応用方面に積極的に協力すべきだと云う議論が、米国やソ連で強く主張されているようである。

総会の最終日に役員の変更が行われた。その結果は

総 裁 フランス気象台長ヴィーオー博士(再選)

副 総 裁 1. ルイズド アズカラガ(スペイン, 新)

2. タハ(アラブ連合共和国)

執行委員 1. ソロートヒン(ソ連, 再選) 2. サットン(英, 再選), 3. バーネット(ニュージーランド, 再選), 4. フェルナンデス(アルゼンチン新), 5. ギアンサンティ(イタリア, 新), 6. トムソン(カナダ, 前), 7. ラファロウスキー(ポーランド, 新), 8. 和達(日本, 新), 9. ワハブ(スダン, 新)

第11回執行委員会は総会終了後、4月29日から5月5日まで、パレナシオンで開かれた。

第3回総会および第11回執行委員会で決議された主な事項はつぎのとおりである。

① IGCの資料収集 WMOはIGY(国際地球観測年)に続く「IGC1959」への参加を決定したが、事務局に付設されている「気象資料中枢」では高層、オゾン、放射の資料を収集することになった。

② 国際交換に用いる単位 第2回総会は国際放送に用いる単位として摂氏およびメートル単位系を勧告したが、未だにヤード・ポンド単位系を用いている国が多いので、次回総会までには切換えるようにという強硬決議を採択した。

③ 専門委員会の廃止と新設 図書刊行物委員会が廃止された。また、気象的考慮を要する水の循環過程の諸要素を水理業務としてWMOに含めることになり、新たに水理気象委員会(Commission for Hydrological Meteorology)が設けられた。

④ 分担金 予算が全般に増加したため、年額の分担

金は従来の約55%増、620万円となった。

2. 川本博士急逝さる

本学会会員川本壘雄技官(海洋気象部海洋課補佐官)は八丈沖で凌風丸の深海観測機械のテストを実施中、悪天候による過労と思われる心臓衰弱のため5月10日館山に下船し、直ちに東京の自宅に帰えられたが、11日朝急逝された。

同技官は海洋化学の権威であり、海洋の放射能業務に大きな業績を残され、また凌風丸に深海探検測器を装備するに際しては、技術面の担当者として寝食を忘れて奔走された。いまだ春秋にとむ川本技官を失ったことは誠に痛恨事であり、ここに衷心より哀悼の意を表する。

3. 田口竜雄氏に岡田賞

伏木測候所長 田口竜雄に昭和34年度岡田賞が授与されることになった。田口氏は「日本気象史料」を初め、60数篇の労作をものされ、日本気象史、日本災害史の開拓者であり、またわが国の気象変動を古文書史料によって明らかにされた。

4. アンドレブルドーム博士死去さる

フランス気象台の極気象の権威である気象技師アンドレブルドーム博士(André Prudhomme)は1959年1月7日、Dumont d'Urville 基地で、はげしいブリザード中の気象観測で行方不明となった。同博士はIGYの第3次フランス観測隊の気象主任で、その科学的良心と寄与は高く評価されていた。

5. 新しい寒極発見さる

1958年8月、ヴォストーク、ソヴェツカヤ両基地で、ソ連科学学士院の南極観測隊によって、気温が -87.4°C 観測された。

6. 数値予報の作業委員会開かる

WMOの高層気象委員会の数値予報作業委員会が1959年3月ストックホルムで開催された。議長はBolin博士で、Hinkelmann博士、Knighting博士、Thompson博士らおよびWMOからAlaka博士が出席した。

7. 数値予報のルーチン作業

1959年6月1日から、日本の電子計算室はアジア向きに直したアメリカのA.D.P.(=Automatic Data Processing)プログラムによって北半球天気図の500mb面自動解析とバトロビク36時間予報をルーチン作業として開始した。

日本物理学会主催

電子計算機講習会の開催

日本物理学会は昭和34年8月31日から9月5日まで東京大学において電子計算機の講習会を開催する。初めての4日間は講義、あとの2日間は実習。

聴講料（テキスト一部代金を含む）

一般 1,600円 日本物理学会員 1,300円

学生 1,000円（賛助員の会社所属の参加者はすべて会員扱いとする）

テキスト代 400円

実習料 1,000円

定員 聴講者 450名

実習をも併せ受講する者 80名 先着順にきめる

申込期間 昭和34年6月20日～7月11日

申込宛先 日本物理学会

東京都文京区本富士町1番地

東京大学理学部内

詳しくは、日本物理学会にお問合せ下さい。

関西支部だより

昭和34年度関西支部年会記事

関西支部の本年度年会は、去る4月21・22日の両日、神戸勤労会館で開催され、下記の論文が発表された。なお第1日の11時45分から支部総会も開かれ、日本学術会議第5期会員候補者の推薦に関する件、日本気象学会理事長名で推薦する朝日賞等の候補者の推薦方法に関する件等について審議した。年会の出席者は135名に達し、盛会であった。

- | | | |
|--------------------------------|----------|-------|
| 1. 台風に伴う近畿地方の雨量の統計調査報告（第1報） | 大阪管区气象台 | 大西慶市 |
| 2. 円形擾乱の垂直構造とその移動との関係について | 神戸海洋气象台 | 太田盛三 |
| 3. 転向点附近の特異な台風経路を支配するもの | 広島地方气象台 | 藤井久治郎 |
| 4. 台風のライフサイクル（京都学説） | 京都大学 | 滑川忠夫 |
| 5. 前線強化に対するビークネス法の適用例 | 京都大学 | 後町幸雄 |
| 6. 四国沖の Frontogenesis の解析例 | 大阪管区气象台 | 中島暢太郎 |
| 7. 降雨雲の調査——梅雨前線附近の雲について—— | 岩国航空測候所 | 中村春雄 |
| 8. 四国地方に於ける前線性豪雨時の Meso 解析の一例 | 清水測候所 | 滝野一郎 |
| 9. 1958年10月17—18日の大雨について | 高知地方气象台 | 横田直造 |
| 10. 豪雨機巧に関する一考察 | 神戸海洋气象台 | 金谷光三 |
| 11. 相当温位解析の予報への解析例 | 和歌山地方气象台 | 花沢正策 |
| 12. 広域解析による北西季節風の場における2つの型について | 舞鶴海洋气象台 | 坂根教閏 |
| 13. 足摺岬の風 | 清水測候所 | 山本大吉 |
| 14. 風の比較観測 | 室戸岬測候所 | 武田尚之 |
| 15. 淡路南部の南風について | 洲本測候所 | 中根清之 |
| 16. 島根県における春季の強風について | 松江地方气象台 | 志貴泰二 |
| | | 来海徹一 |

1959年6月